

【平成16年度専修学校を活用した若者の自立・挑戦支援事業】

事業名	地域ニーズに合致したIT技術者養成日本版デュアルシステムの教育プログラム開発		
学校法人名	学校法人古河コア学園		
学校名	古河テクノビジネス専門学校		
代表者	理事長 渡辺幸久	担当者・連絡先	事務長 原田圭二 0280-22-2411
<p><事業の概要></p> <p>現在、大学・短大・専修学校などを卒業した後、心ならずもフリーター・無業者・ニートなどを選択する若者が増えている。このように若者を取り巻く現在の雇用環境は厳しい状況である。若者が自ら技能を高めることやキャリアを積もうとする意欲が減少してきていることが、社会的な問題となっている。このような状況は、地元（茨城県西地域）も例外ではない。このような状況が続けば、若者に職業能力が蓄積されないばかりか、地元の経済活力にも重大な影響をおよぼすと考えられる。こうした状況に対応し、学生の就業・就労意欲を向上し、社会に出て働くことについての意識づけを行うことによって、フリーター化・無業者化を防止し、地元IT企業が求めるニーズに応えるIT技術者人材育成を目的に、この事業を実施した。</p> <p>地元（茨城県西地域）のIT企業に、専修学校生が就職するためには、ITの専門能力のみならず、企画力・営業力・交渉力など総合的な能力を身につけた即戦力となる人材である必要がある。</p> <p>就職後のミスマッチの防止や就労意欲の向上のために、専修学校と地域のIT企業が連携して、「IT技術者養成日本版デュアルシステム」の実証講座「日本版デュアルシステム（古河版）」を専修学校に在学している学生を対象にして実施し、その過程において地域ニーズに合致した教育プログラムを開発した。</p> <p>また、学生・専修学校・企業間のコミュニケーション（出欠席・出欠勤・報告・連絡・相談等）において、インターネットを利用したグループウェア（サイボウズ）の利活用について研究開発した。</p> <p><成果></p> <p>（1）本事業において、「地域ニーズに合致したIT技術者養成日本版デュアルシステム」の教育プログラムに基づき、「ネットワーク技術者養成」訓練カリキュラム、「データベース技術者養成」訓練カリキュラム、「Javaプログラマ養成」訓練カリキュラム、「企業人育成」共通カリキュラムを作成した。各カリキュラム（抜粋）を末尾に提示する。</p> <p>（2）実証講座「日本版デュアルシステム（古河版）」の受講生を古河テクノビジネス専門学校のIT系の学科に在籍する学生から6名を選抜した。</p> <p>6名に対し、実証講座「日本版デュアルシステム（古河版）」を実施した。受入企業は、(株)サンオーコミュニケーションズ・(株)古河ソフトウェアセンター・(株)古河市情報センターの3社である。期間は平成16年10月18日から平成17年1月31日までの63日間（企業実習時間：1社あたり252時間）である。</p>			

実施形態は以下のとおりである。

- ・専修学校において、座学（講義・実習）を実施した。
- ・企業において、企業実習（各訓練カリキュラム準拠）を実施した。
- ・企業実習は、原則として平日の13時から17時までとした。
- ・企業実習時間は、1社あたり1日4時間（計252時間）

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜
午前	専修学校での学習 開始9時から終了12時					休	休
午後	企業での就業 開始13時から終了17時						

また、企業実習の事前と企業実習中の期間に企業人育成共通カリキュラムと銘打って、受講生6名全員を対象にして実施した。その中でも特に「SE・PGとの座談会」「IT企業経営者・管理者との座談会」は好評であった。

実証講座終了後に、受講生に対し、企業実習自己評価シートを使って自己評価を行った。今回の受講生6名は、開始当初からモチベーションが高く、IT業界・企業に興味があったこともあり、4ヶ月間の企業実習においては、高い自己評価をもって終了した。また、受入先企業3社における企業実習をとおして、学校とは異なる企業の環境・雰囲気を経験し、現役で働く人達（企業担当者・SE・プログラマなど）とのコミュニケーションをとおしてIT業界・企業の実像と求められる人材像の理解につながり、自己の意識改革につながった。

- (3) インターネットを利用したグループウェア「サイボウズ Office6」を、受講生・専修学校・企業間のコミュニケーション（出欠席・出欠勤・報告・連絡・相談等）として活用できた。

また、受講生によるプロジェクトチームの開発では、受講生同士のファイルの受渡しやプロジェクトの打合せ、企業への相談で利用された。

- (4) 「成果報告会」「特別講演会」を実施するとともに報告書を作成し、本事業の成果を関係者に発表した。「特別講演会」の演目は、以下のとおりである。

「日本版デュアルシステムのススメ」（講師：社会保険労務士）

「雇用ミスマッチの現状（茨城県内若年層の実態）」（講師：茨城県地域労使就職支援機構）

「(株)古河ソフトウェアセンター若年層の人材育成事業」（講師：(株)古河ソフトウェアセンター）

- (5) 今回の受講生6名のうち、3名が平成17年3月の卒業であったが、3名全員がIT系の企業またはIT系の職種に就職内定した。残りの3名は平成18年3月の卒業であるため、現在、IT業界・企業への就職意識が高まり、就職へ向け活動中である。

ネットワーク技術者養成訓練カリキュラム

訓練名	ネットワーク技術者養成	
期間	平成 16 年 10 月 18 日～平成 17 年 1 月 31 日	
訓練総合時間	252 時間	
訓練時間	開始 13 時～終了 17 時の平日のみ	
訓練目的	ネットワーク技術者が必要とする技術・技能の習得と実務を理解し、企業実習をとおして、企業人として必要なコミュニケーション能力を育成・理解することを目的とする。	
訓練目標	サーバー構築やネットワーク管理において実務実践能力・コミュニケーション能力を身に付けた人材を養成する。	
訓練内容		
	・ ネットワーク管理の概要	32 時間
	・ Linux サーバーの構築	40 時間
	・ 社内ネットワークの整備	16 時間
	・ 社内カスタマー業務のサポート	68 時間
	・ サーバーメンテナンス業務のサポート	24 時間
	・ 社内業務のサポート	72 時間
	合 計	252 時間

データベース技術者養成訓練カリキュラム

訓練名	データベース技術者養成	
期間	平成 16 年 10 月 18 日～平成 17 年 1 月 31 日	
訓練総合時間	252 時間	
訓練時間	開始 13 時～終了 17 時の平日のみ	
訓練目的	データベース技術者が必要とする技術・技能の習得と実務を理解し、企業実習をとおして、企業人として必要なコミュニケーション能力を育成・理解することを目的とする。	
訓練目標	データベース設計・開発において即戦力となり、プロジェクトチームでのシステム開発が出来るコミュニケーション能力を身に付けた人材を養成する。	
訓練内容		
	・ データベース設計の概要	28 時間
	・ My SQL への実装	12 時間
	・ 顧客要件の把握と業務分析能力の習得	20 時間
	・ チームによる模擬開発	112 時間
	・ 社内業務サポート	40 時間
	・ インストラクター業務の理解・実践	40 時間
	合 計	252 時間

Java プログラマ養成訓練カリキュラム

訓練名	Java プログラマ養成	
期間	平成 16 年 10 月 18 日～平成 17 年 1 月 31 日	
訓練総合時間	252 時間	
訓練時間	開始 13 時～終了 17 時の平日のみ	
訓練目的	Java プログラマが必要とする技術・技能の習得と実務を理解し、企業実習をとおして、企業人として必要なコミュニケーション能力を育成・理解することを目的とする。	
訓練目標	Java プログラミングにおいて即戦力となり、プロジェクトチームでのシステム開発が出来るコミュニケーション能力を身に付けた人材を養成する。	
訓練内容		
	・ Java プログラミングの概要	32 時間
	・ Web アプリケーション（サーブレット・JSP）の習得	16 時間
	・ データベースとの連携技術（JDBC）の習得	8 時間
	・ 顧客要件の把握と業務分析能力の習得	20 時間
	・ チームによる模擬開発	112 時間
	・ 社内業務サポート	64 時間
	合 計	252 時間

企業人育成【共通カリキュラム】

訓練名	企業人育成【共通カリキュラム】	
期間	平成 16 年 10 月 4 日～平成 17 年 1 月 21 日	
訓練総合時間	24 時間	
訓練目的	現在の雇用環境と「日本版デュアルシステム」に関して理解した後、企業人として必要な「問題解決能力」「社会常識・ビジネスマナー」「組織の中でのコミュニケーション能力」を習得し、「IT 業界・企業の実情・求められる人材像」を明らかにすることを目的とする。	
訓練目標	企業人として必要な基礎知識・能力を身に付けた人材を育成する。	
訓練内容		
	・ 現在の雇用環境	4 時間
	・ 日本版デュアルシステムの概要	2 時間
	・ 企業実習における注意点	6 時間
	・ グループウェア「サイボウズ Office6」の利用方法	3 時間
	・ SE・PG との座談会	6 時間
	・ IT 企業経営者・管理者との座談会	3 時間
	合 計	24 時間